

新入生の皆様、ご入学、おめでとうございます。焼津市内の至るところに桜が咲き誇るこの季節、ご入学を教職員そろって歓迎いたします。ともにこの日をお迎えになったご家族の方々、静岡福祉大学に、ようこそお越しくださいました。心から敬意と祝意を表します。

また本日、ここにご多用中の、焼津市長・中野弘道様をはじめ、ご来賓の方々にご臨席を賜り、入学式を挙行できますことに、教職員を代表して感謝申し上げます。

本日、めでたく静岡福祉大学に入学した学生は、182名になります。

静岡福祉大学は、平成16年、福祉専門職を養成する高等教育機関として開学しました。これまで、「福祉力を鍛える」ことを教育理念に、「福祉」の高等教育機関として、社会に貢献して参りました。

とくに今年度は、子ども学部子ども学科が開設され、私どもの使命である「実践力のある福祉専門職・教育専門職の養成を通じて福祉社会を実現する」環境が整いました。

福祉社会とは、子育てから介護まで安心できる社会であり、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もがその能力と発達を自覚できる社会、そして、その能力によって豊かな人生を過ごすことが可能な社会にほかなりません。その意味では、福祉という言葉は幸せの創出と言いかえてもよいでしょう。

少子化対策が叫ばれる現在、若者、高齢者、障害者がその能力を発揮できる環境を整えるために、保育、教育、介護を含む広い意味での「福祉」の担い手である専門職を育てることが高等教育機関には求められています。福祉専門職・教育専門職は、少子高齢化がさらにすすむ全国各地で、もっとも期待されている専門職の一つであり、少子高齢化が進む日本で、「福祉」の分野は成長分野にほかなりません。

つまり、何よりも社会が皆様を求めています。専門知識、専門技術を高等教育機関で身につけた皆様が活躍することを、地域が願っています。

現在ほど、高等教育機関が地域の社会資源として期待されている時代はないでしょう。国の教育再生会議では、大学進学率を7割に引き上げる議論がありましたし、地方創生の枠組みにおいても、全国各地で行政と大学の連携や提携が進んでいます。私どもも先頃、焼津市と包括協定を締結しました。

さて、静岡福祉大学の教育面での特色は、教員と学生の距離が近く、面倒見の良い大学という点につきます。一人ひとりの学生に応じたきめの細かい指導の仕組みはもちろんですが、私どもは一人の学生も置きざりにしない教

育を掲げています。

昨年からは、新入生を対象に「学長と話す会」と名づけた企画をスタートしました。これは学長が、新入生全員と膝を交えて対話する内容で、前期と後期の2回、実施しました。今年度も継続したいと考えています。

それに加えて、今年度はさらにきめの細かい教育を目指し、大学のカリキュラムの見直しを進めようとしています。要は、学生一人ひとりの資質と個性を見きわめ、4年間の道を歩んでいただく態勢を作ること、そして教育のセーフティネットとでもいうべき、一人も脱落しない支援体制を整えたいと決意を新たにしています。

そして、何よりも2学部による活気に満ちたキャンパスの創造を目指したいと考えています。本学には才能豊かな多くの教職員がいます。オープンキャンパスをはじめ、さまざまな機会をとらえて、魅力的な模擬授業にとどまらず、心に響く音楽の演奏や、感動を呼ぶ美術作品の展示なども企画していきたいと思っています。

開学して12年目を迎え、新たなスタートを切ろうとしている静岡福祉大学で、新入生の皆様も、その新たな歴史と一緒に作ろうではありませんか。そして、4年間のキャンパスライフを通じて、自分の夢を見だし、4年後には社会に向けて力強く羽ばたいて欲しいと心から願っています。

本日はご入学、おめでとうございます。

平成27年4月2日

静岡福祉大学 学長 太田晴康